

## 第 8 回 五ヶ瀬川水系等浸水被害及び土砂災害軽減対策協議会

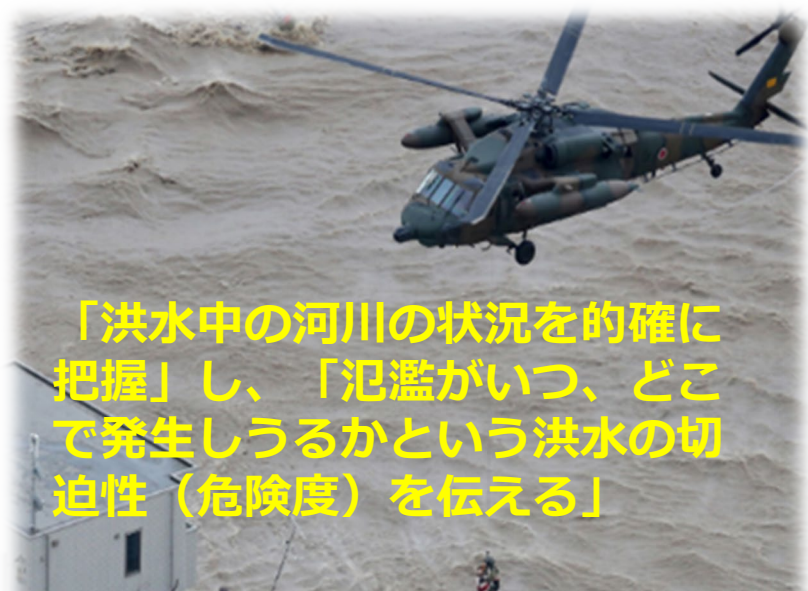
## 各機関からの話題提供

■ 国土交通省 延岡河川国道事務所	
・ 水害リスクライン	1
・ タイムライン説明動画	2
■ 宮崎地方気象台	
・ 危険度分布の改善	3
・ eラーニング教材	4
■ 宮崎県砂防課	
・ マイハザードマップの作成支援	5
■ 延岡土木事務所	
・ 輪中堤・堤防強化・河道掘削	6
・ 土砂災害から住民を守るための施設整備	7
・ 危機管理型水位計の設置	8
・ 洪水浸水想定区域図の見直しと公表	9
・ マイハザードマップ作成講座及び土砂災害防止教室	10
■ 西臼杵支庁	
・ 土砂災害防止教室	11
■ 延岡市	
・ 防災講演会や防災講話、訓練などの防災・減災のための普及啓発事業	12
・ 災害時にあらゆる手段を用いて情報を伝達するための体制の整備事業	13
・ 外国人向け多言語での防災情報提供、外国人向け防災講話	14
・ 指定避難所・指定避難場所の確保と環境改善	15
■ 高千穂町	
・ 防災マップの作成	16
■ 日之影町	
・ 重要施設の移転	17
■ 五ヶ瀬町	
・ 重要施設の移転	18
・ 新防災行政情報伝達システムの整備	19

⑧ICTを活用した洪水情報、大雨警報情報、土砂災害警戒情報の提供

【水害リスクライン】

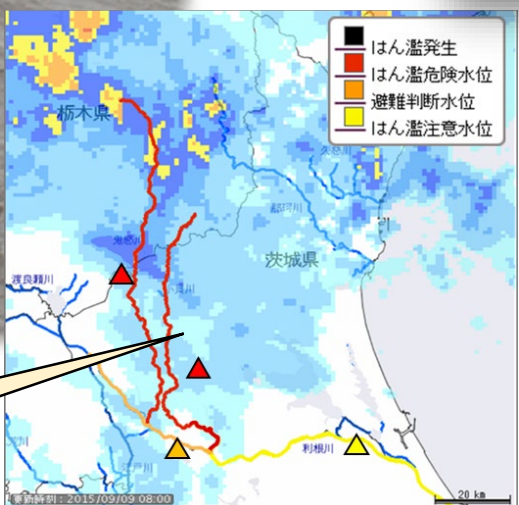
○水害リスクラインは平成27年の鬼怒川での氾濫発生等近年の豪雨災害を契機として、洪水時の河川の状況を的確に把握し、氾濫がいつ、どこで発生しうるかという洪水の切迫性（危険度）をわかりやすく発信。



「洪水時の河川の状況を的確に把握」し、「氾濫がいつ、どこで発生しうるかという洪水の切迫性（危険度）を伝える」



水位観測所の水位で代表して、一連区間の危険度を表示



現行の危険度の表示（川の防災情報）



左右岸別・概ね200m毎に上下流連続的に危険度を表示

水害リスクラインを活用した危険度の表示

1) 防災活動の効率化及び防災体制の強化に関する事項

② 防災力の向上につながる住民避難に着目したタイムライン(事前防災行動計画)の策定 **【タイムライン説明動画】**

○タイムラインの説明動画は、各場面(避難、救助、復旧等)で着目すべき防災行動について示したものである。担当者が異動しても引継ぎが容易にできるようにタイムライン作成経緯を動画や写真を使って分かりやすく解説した。



担当者が異動したときの引継ぎ用として活用

なぜ、そのタイミングにしたのかを写真や映像を使って解説



**解説例**  
 避難準備・高齢者等避難開始の発令は、内水を考慮して早期に発令するタイミングとした。これにあわせて避難所の開設も早めた。

**五ヶ瀬川防災ポータルサイト**

**タイムライン**

**被害イメージ映像**

**タイムライン運用手引き**

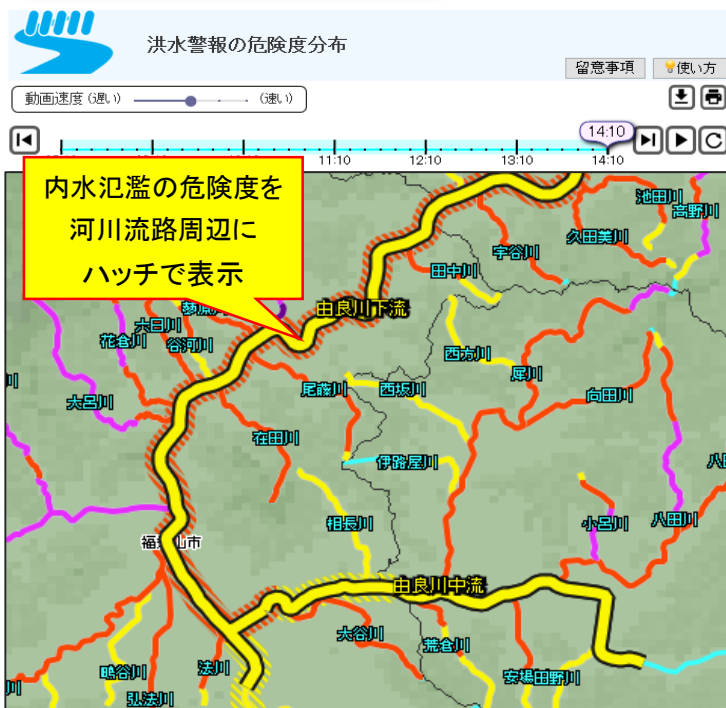
既存ツールの活用についても解説

⑧ICTを活用した洪水情報、大雨警報情報、土砂災害警戒情報の提供

【危険度分布の改善】

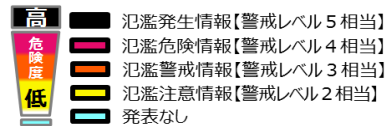
○「危険度分布」において「本川の増水に起因する内水氾濫（湛水型の内水氾濫）の危険度」も確認できるよう、本川流路の周辺にハッチをかけて危険度を表示するように改善。

改善(イメージ)

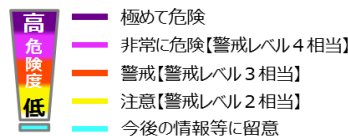


- 指定河川洪水予報
- 水位情報(川の防災情報)

指定河川洪水予報  
 (国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな損害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。)

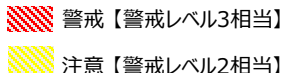


洪水警報の危険度分布



本川の増水に起因する内水氾濫（湛水型の内水氾濫）の危険度

(河川の増水によって周辺の支川・下水道からの排水ができなくなることで発生する内水氾濫による洪水被害のおそれがあるとき発表。)



平成30年7月豪雨の概要（近畿管内）《第8報》  
 平成30年8月10日近畿地方整備局

■ 成果

「危険度分布」に本川の増水に起因する内水氾濫の危険度も表示することで、住民の自主的な避難の判断や、市町村のより適切な避難情報の発令につながる。

■ 今後に向けて

引き続き、出前講座、各種会議等を利用し、利活用や避難について周知啓発を行う。

## ③ 自ら判断して避難できる人材育成を目的とした学校、自治会、自主防災組織等への水防災教育の推進

## 【eラーニング教材】

- 台風・豪雨から「自らの命は自ら守る」基本的な知識ととるべき行動を、他人と接触せずに学べる教材。  
感染症拡大防止対策を気にする必要なし。

## 気象庁 eラーニング教材 「大雨のときにどう逃げる」

- 台風・豪雨から「自らの命は自ら守る」基本的な知識ととるべき行動を学びます。  
○他人と接触せず学べる教材です。**感染症拡大防止対策を気にする必要はありません。**  
※みんなで集まって一緒に行くことも可能です。その場合は、三密を避ける方法で実施してください。  
○**WEB会議**の開催・参加の方法を説明した**参考資料も添付**しています。  
○専門家や経験者がいなくても、**学習の進め方を解説する資料に沿って進められます。**  
○人数や実施形式に決まりはありません。**難しく考えず、気楽にはじめましょう。**

## ■ 成果

予め「自らの命は自ら守る」基本的な知識ととるべき行動を学ぶことで、住民の自主的な避難の判断につながる。

## ■ 今後に向けて

引き続き、出前講座、各種会議等の機会を利用し、利活用について周知啓発を行う。



目標:START

自らの命は自ら守る

動画教材を視聴  
(約15分×動画5つ)

HOP

学習教材

基本的な知識を学ぶ

ワークシートに記入  
(概ね30分)

STEP

実習教材1

自宅の災害リスク  
自分の避難行動を整理みんなと意見交換  
(概ね30分~40分)

JUMP

実習教材2

思い込みによる  
誤解や  
疑問・不安を解消実施方法  
(基本形)自分の好きな時間に  
マイペースで実施ひとりでやるのが  
ちょっと不安・・・  
という人向け家族や身近な人と  
WEB会議で実施みんなで集まって  
一緒に行くことも可能家族や身近な人と  
WEB会議で実施みんなで集まって  
一緒に行くことも可能

## ②地域の連携強化のための地域防災マップ作成の出前講座【再掲】（情報提供） 【マイハザードマップの作成支援】

○砂防課では、土砂災害のおそれのある区域の周知や避難に関する知識の習得、地域コミュニティの強化を図るため、マイハザードマップ作成支援を行っている。

○令和2年度は、作成支援と事例集の作成・配布を行った。

## 作成支援の流れ

## 1. 事前準備

地区の選定、資料準備、事前打合せを行う

## 2. マップ作成

地区住民へマイハザードマップについて説明し、話し合いながらマップを作成する

## 事例集の作成・配付

市町村が今後マイハザードマップ（地区防災マップ）の作成を支援する際の参考資料として、令和元年度までに実施したマイハザードマップ作成講座の流れをまとめた事例集を作成し、配付した。

また、地区住民との事前打合せの際に確認しておいた方がよい点などのポイントを記載した実施手順書も併せて配付した。

## 延岡市の場合

日時：令和2年10月17日

開催地：富美山北区

参加人数：24人

## 住民感想

- ・危険場所を確認できた
- ・今後避難の際に声をかけやすくなると思う
- ・今後の区の活動に取り入れていきたい

等々・・・

事例集  
実施手順書抜粋

## 事例集

令和元年度～都市～

マイハザードマップの作成から利活用までの流れ

ステップ1 事前準備  
・地区の選定  
・資料の準備  
・事前打合せ

ステップ2 マップ作成  
・地域での話し合い

ステップ3 マップの活用  
・避難訓練等の活用  
・マップの改善

## 参加者

- ・自治会長や公民館長、消防団長など、行政や地域の状況、住民の実情に詳しい人（リーダー）
- ・自主防災組織や地域の役員（リーダーの補佐）
- ・町内の防災担当者
- ・消防団（OSAE）
- ・学芸関係者
- ・防災専門家（防災士・砂防ボランティア）

## 都市実績

参加人数：25名  
（うち職員7名、被災12名）  
公民館長 1名  
公民館分館長 2名  
消防団員 1名  
ほか地区住民12名



## 実施手順書

- 参加者：
  - ・住民代表、市町村職員、
  - ・土木事務所職員、
  - ・防災士（参加する場合）
- 打合せ内容
  - ・マイハザードマップの説明
  - ・講座の流れの確認
  - ・土砂災害警戒区域の確認
  - ・避難場所の確認
  - ・参加者数の確認
  - ・会場、実施日時の決定
  - ・他地区への呼びかけの有無等
  - ・その他

## Point：

打合せ会場は、作成講座を行う会場（避難所等）だと収容人数やレイアウトの話し合いがスムーズになります。

## 使用した機材・道具

- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・延長コード
- ・レーザーポインタ
- ・水性マジック（4色）
- ・丸シール（4色）
- ・付箋
- ・書き込み用大判地図
- ・警戒区域公示図書
- ・デジタルカメラ（記録用）
- ・その他資料（災害年表、ハザードマップ等）

## (3) 作成講座の実施

- 市町村の役割
  - ・作成の補助
  - ・資料の準備
- 事務所の役割
  - ・マップ作成講座の進行（防災士に依頼する場合は無し）、土砂災害防止講座の講師
- 砂防課の役割
  - ・機材の準備

## ※マップ作成の手順

- ①幹線道路を確認、着色
- ②水路を確認、着色
- ③自宅を着色（シール）
- ④避難時間支援者の家を着色
- ⑤防災拠点となる施設に着色
- ⑥地域の特徴（よく落石がある、よく浸水する、街灯がない等）を記入する。
- ⑦避難路の確認（2経路以上）



【作成状況】

【発表状況】

1) 洪水を河川内で安全に流す対策

①整備計画規模に対応した河道掘削等の実施

②詳細な堤防高の確認と堤防断面の確保

【輪中堤・堤防強化・河道掘削】

- 五ヶ瀬川 水防災事業を実施中 細見地区で輪中堤整備を推進し3月概ね完成
- 北川 水防災事業を実施中 大峡地区等で宅地嵩上げによる浸水対策を推進
- 祝子川 広域河川改修事業を実施中 宇和田地区で堤防強化対策を推進
- 北川ほか 国土強靱化対策工事を実施中 五ヶ瀬川、北川、小川等で掘削工事を推進



五ヶ瀬川 細見地区(輪中堤)



祝子川 宇和田地区(堤防強化)



北川 笹首地区(河道掘削)

■ 令和3年度の予定

- 北川では、大峡地区等で宅地嵩上げによる浸水対策を推進し完了させる。
- 祝子川では、宇和田地区の堤防補強対策や大野地区の樋門工事等を推進する。
- 国土強靱化のための加速化対策により、河川の樹木伐採や掘削を実施する。

2) 土砂災害から住民を守るための対策

①土砂災害から住民を守るための施設の整備を行う

【土砂災害から住民を守るための施設整備】

○令和2年度施工箇所	砂防	5箇所（奥の谷川	他4箇所）
	急傾斜	10箇所（三足地区	他9箇所）



奥の谷川



三足地区

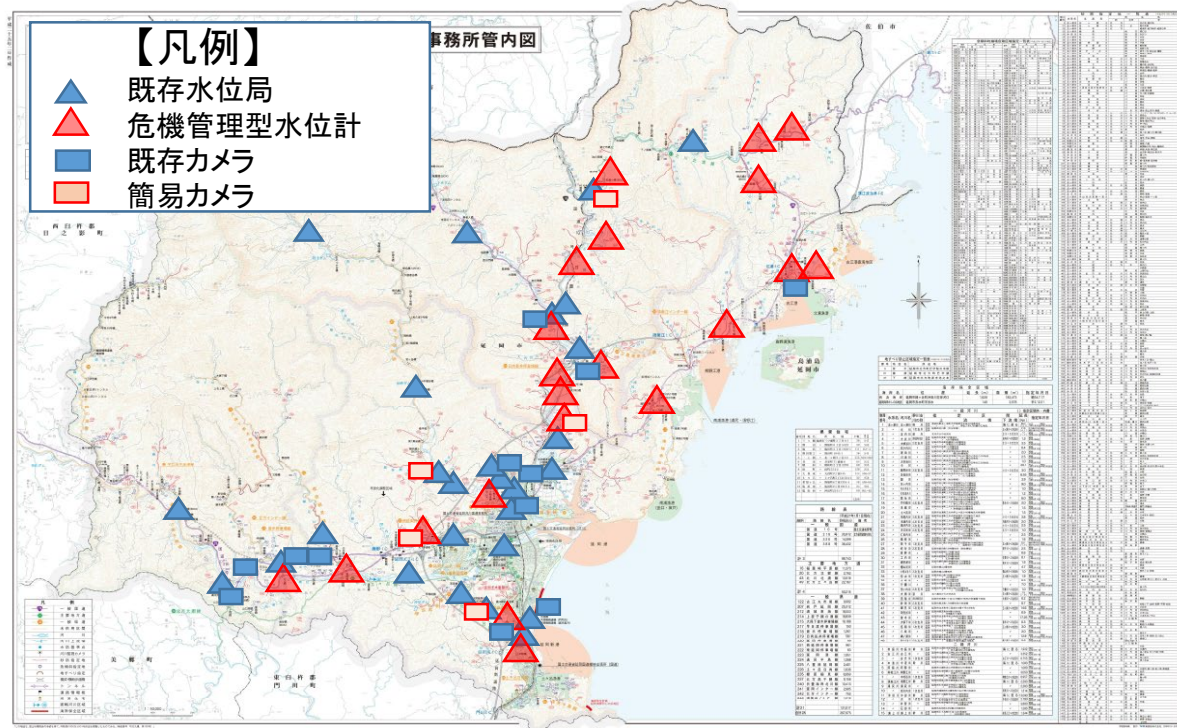
- ハード対策により、人家、避難路等の保全が図られた。
  - 今後も計画的にハード対策を推進していく。
  - また、ハード対策に合わせ、市からの要請等に応じて津波避難路の整備を行っていく。
- （最新：平成30年度に塩浜地区で津波避難路設置）



- ⑥ ケーブルテレビ等を通じてみずからが水害リスク情報の収集が可能となるための水位計、量水標、河川カメラ、浸水センサー等の検討・整備
- ⑦ 市町村庁舎や災害拠点病院等への情報伝達及び機能確保のための対策の充実
- ⑧ 安定した雨量・水位情報等を提供できるよう観測局等の機能の向上を図るとともに適切な維持管理に努める

## 【危機管理型水位計の設置】

- 身近な河川の水位情報を提供できるよう危機管理型水位計（1基）、簡易カメラ（3基）を設置。
- 浸水対策として水位観測局の高上げを実施（3基）。



危機管理型水位計設置例：  
多良田川  
猪之島橋  
(北川町)



簡易カメラ設置例：  
家田川  
家田地区  
(北川町)

- 身近な地区を流れる河川において、洪水時の水位情報を住民の方々にお示しすることにより、避難を判断するための材料になるものと期待している。

1) 平時からの住民等への周知・訓練に関する事項

- ① 想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域図等の策定・公表
- ② 想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水氾濫シミュレーションの作成・公表
- ③ ハザードマップの作成や訓練等への活用に関する情報提供及び避難計画等を反映した洪水及び土砂災害ハザードマップの策定・周知

【洪水浸水想定区域図の見直しと公表】

- 五ヶ瀬川、祝子川、北川、小川 洪水浸水想定区域図作成及び公表
- 沖田川 洪水浸水想定区域図作成及び公表

■ 洪水浸水想定区域図の見直しと公表

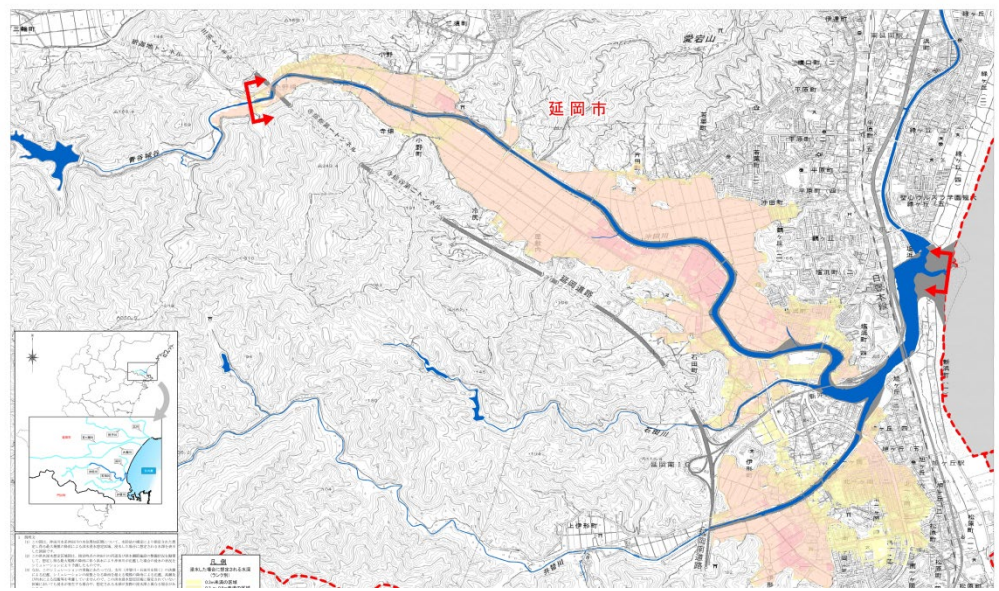
- 洪水浸水想定区域図について、これまでの計画規模のものから、想定し得る最大規模の降雨（概ね1000年に1回の確立）を前提とした洪水によるものを作成することとなり、延岡土木事務所では、管理する河川の水位周知区間（5河川）について、浸水想定区域図の作成を進めてきた。
- 五ヶ瀬川、祝子川、北川、小川については、平成30年12月に公表。
- 残る沖田川についても、平成31年3月に公表したところである。
- 近年、施設計画を越える豪雨災害が発生するなか、人命を守り、社会経済の被害の最小化を図るための対策を検討し、準備しておくための基礎資料になるものと期待している。

■ 洪水浸水想定区域図作成箇所



■ 洪水浸水想定区域図作成例

沖田川水系沖田川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



## 1) 平時からの住民等への周知・訓練に関する事項

- ⑤防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進
- ⑨水位周知河川等の指定について検討・調整や簡易な方法を活用した情報提供など水害や土砂災害の危険性の周知促進
- ⑩浸水実績や土砂災害実績等の情報共有及び住民等への周知

【マイハザードマップ作成講座及び土砂災害防止教室】

- マイハザードマップ作成講座の実施（1地区）
- 土砂災害防止教室の実施（1小学校）



マイハザードマップ作成講座  
（富美山北区）（R2.10.17実施）

参加人数：約20人



土砂災害防止教室  
（一ヶ岡小）（R2.12.15実施）

参加人数：約40人

○県民の方々に土砂災害防止に対する理解と関心を一層深めていただくとともに、土砂災害から身を守るための防災知識の普及・啓発を図っている。

○その一環として小学生を対象とした土砂災害防止教室、自治会の住民等を対象とした「マイハザードマップ作成講座」を実施している。

（延岡土木管内でマイハザードマップ作成講座は、初めて実施）

## ①防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進【再掲】

【土砂災害防止教室】

- 管内の小学校、中学校を対象に、土砂災害の啓発を図るため、管内3町で、土砂災害防止教室を開催した。土石流、崖崩れの模型を使用し、メカニズムを説明。視覚的に見せることで、改めて土砂災害の怖さを再認識出来た模様。家庭や地域での避難の大切さを再認識することが出来た模様。



参加人数：約30人

高千穂町立押方小土砂災害防止教室（R2.7.6実施）



参加人数：約20人

日之影町立宮水小土砂災害防止教室（R2.7.7実施）



参加人数：約20人

五ヶ瀬町立上組小土砂災害防止教室（R2.7.7実施）



参加人数：約20人

高千穂町立田原中土砂災害防止教室（R2.9.16実施）

## 1) 平時から住民等への周知・訓練に関する事項

### ⑤ 防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進

【防災講演会や防災講話、訓練などの防災・減災のための普及啓発事業】

- 防災アドバイザー「東京大学特任教授片田敏孝氏」による防災講演会の開催
- 自主防災組織や企業、学校などへの防災講話や防災訓練の支援



延岡市防災講演会（令和2年10月18日）  
講師 片田敏孝氏（東京大学特任教授）  
参加者 約900人



自主防災組織防災講話・訓練  
「延岡市わが家の防災ハンドブック」を活用した防災講話

#### ◆ 成果・課題・今後の予定

- 防災講演会には約900人が参加するなど、市民の防災に関する意識は高まっている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者が同一会場に集まる防災講話や訓練が実施しにくい状況があるため、防災講話の動画を作成しホームページで公開している。今後、幅広く視聴を呼びかけるとともに感染症対策を行った上で防災講話や訓練を推進する。

## 2) 情報伝達、避難計画等に関する事項

## ③ 迅速な災害情報入手のための交通事業者やインフラ事業者等と連携した情報提供の検討

## 【災害時にあらゆる手段を用いて情報を伝達するための体制の整備】

○防災行政無線のほか、災害情報メール、防災ラジオ、防災アプリやライン、フェイスブックによる情報伝達体制の構築を図るとともに利用登録を促進する。



防災行政無線  
(戸別受信機)



延岡市防災ラジオ

コミュニティ放送（FMのべおか）を活用した自動起動型防災ラジオ



防災アプリ



延岡市公式ライン

## ◆ 成果・課題・今後の予定

延岡市防災ラジオシステムの整備

延岡市防災アプリの整備

防災ラジオ活用の周知、災害情報メール・公式ライン・防災アプリ等の利用登録を促進

## 2) 情報伝達、避難計画等に関する事項

- ⑥多数の住民が(観光客等)が利用する場所等への洪水ハザードマップの掲示、外国人向け多言語での防災情報提供の検討  
 ⑦地域で生活する外国人を含めた災害時の安全確保のための防災訓練の実施

## 【外国人向け多言語での防災情報提供、外国人向け防災講話】

- 市ホームページ、延岡市わが家の防災ハンドブックに外国人向け防災情報及び情報の取得方法を掲載  
 ○外国人の延岡での生活をサポートする研修の中で防災講話を実施

## 外国人のための防災パンフレット



TOP

市ホームページに外国人のための多言語防災パンフレットを掲載



## 外国人のための防災パンフレット

URL <http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/display.php?cont=170208142311>



## Procedures in the Event of a Natural Disaster

English 한국 简体中文 繁體中文

For your safety, please be sure to check with your neighbors and the chief of the ward in which you live about the appropriate procedures for different natural disasters, as well as the locations of evacuation areas.

## Safety tips

(外国人旅行者にもわかりやすく災害情報を通知する便利ツール)



URL <https://www.rcsc.co.jp/safety-tips-en>

## Safety tips

English 한국 简体中文 繁體中文

"Safety tips" notifies a user with Earthquake Early Warnings, Tsunami Warnings, Volcanic Warnings, Weather Warnings, Heat illness Warnings and Civil Protection Information issued in Japan. It is a free application developed under the supervision of Japan Tourism Agency.

33

延岡市わが家の防災ハンドブックに外国人のための防災パンフレットや外国人旅行者等に災害情報を通知するツールの情報を掲載

## ◆成果・課題・今後の予定

- 外国人向け多言語での防災情報の提供を行っている。  
 ○避難所等で多言語対応が可能な体制を検討する必要がある。

## 3) 迅速かつ安全な避難に資する施設整備に関する事項

- ①洪水氾濫による被害の軽減のための民間企業や福祉施設等と連携した指定避難所・指定緊急避難場所の確保
- ②災害時における逃げ遅れをなくすため、要配慮者の災害対応能力を考慮した避難所及び避難路等の整備

## 【指定避難所・指定避難場所の確保と環境改善】

- 県立学校や民間施設等と連携し避難所及び避難場所の利用に関する協定を締結
- 災害時の逃げ遅れゼロを目指して多目的トイレの設置や段差解消など避難所等の環境を改善



延岡星雲高校との避難所等施設利用に関する  
協定締結報告会（令和3年1月14日）



多目的トイレ設置予定の避難場所  
（三川内小中学校体育館）

## ◆成果・課題・今後の予定

## 【避難所等環境改善事業】

三川内小中学校に多目的トイレ、段差解消のスロープを設置予定  
板張りの避難場所の寝づらさを解消するための敷マットの購入  
停電時の照明確保、携帯電話等充電のための発電機購入  
避難所等の環境改善のためトイレ等改修工事、備品等を購入予定



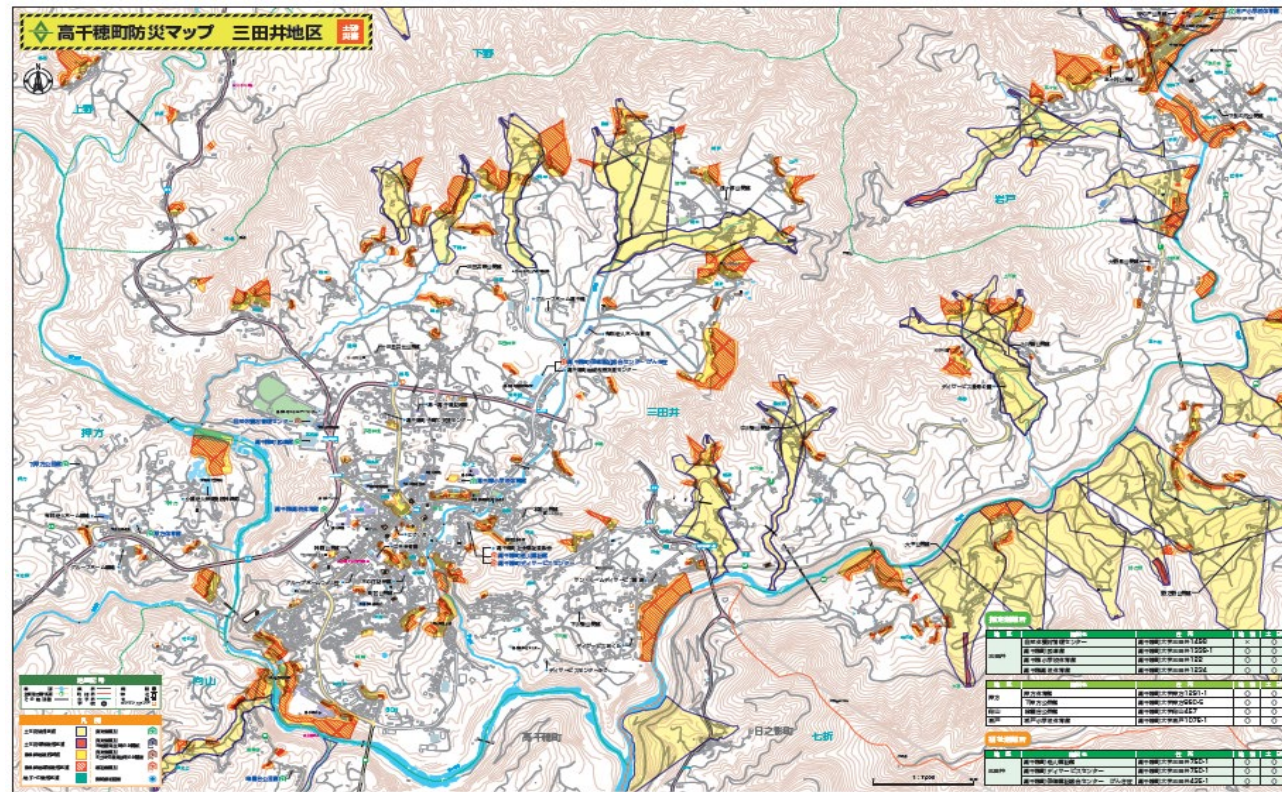
1) 平時からの住民等への周知・訓練に関する事項

- ②ハザードマップの作成や訓練等への活用に関する情報提供及び避難計画等を反映した洪水及び土砂災害ハザードマップの策定・周知
- ⑩浸水実績や土砂災害実績等の情報共有及び住民等への周知

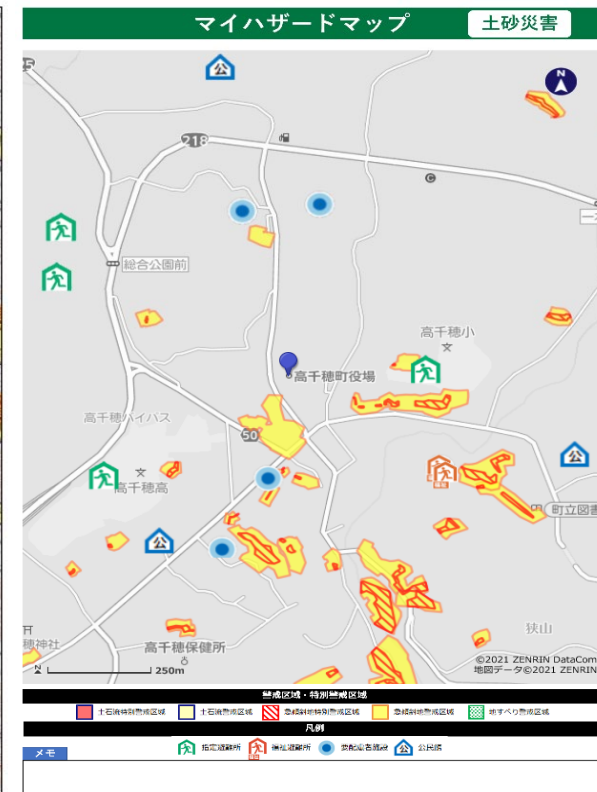
【防災マップの作成】

- ◎高千穂町防災マップを作成（土砂災害、浸水害及び浸水実績）
- ◎WEB版高千穂町防災マップを作成（土砂災害、浸水害及び浸水実績）

- ・町内を8地区に分割し、1地区を930×630mmサイズ一枚紙にすることで、町民が確認しやすいマップを作成
- ・災害に関する情報ページにおいて、過去の浸水実績を表示したページを作成
- ・WEB版では自宅から避難所までの範囲等を印刷できる機能があり、住民のマイハザードマップ作成支援ツールとして利用できる



高千穂町防災マップ 三田井地区



マイハザードマップ (土砂災害)

4) 避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤整備

⑦市町村庁舎や災害拠点病院等への情報伝達及び機能確保のための対策の充実 **【重要施設の移転】**

- 洪水・地震等においても安全な防災拠点施設として機能する役場の建設（庁舎移転）
- 日之影町：日之影町役場新庁舎建設事業 令和1年11月～令和3年3月予定



平成17年9月 台風14号 被災状況

○日之影町役場の現庁舎本館は昭和31年に建設されて以来60年以上が経過し、施設全体に老朽化が進んでいる状況であり、平成29年8月に新庁舎を建設する運びとなった。新庁舎建設の建設地選定にあたっては、平成17年9月の台風14号での五ヶ瀬川の氾濫に伴い、庁舎1階が浸水した経緯に加え、国内各地では、想定を超える雨量による水害も頻発しており、本町でも今後起こりうる事が予想され、防災拠点としての安全性が確保が困難である事も一つの要因となり、現在の場所から高台へ移転する事となった。  
現在は令和3年3月完成に向けて庁舎建設を進めている。



R2年8月時点 進捗状況



R2年9月末時点 進捗状況



整備イメージ

⑦市町村庁舎や災害拠点病院等への情報伝達及び機能確保のための対策の充実 **【重要施設の移転】**

- 洪水・地震等においても安全な防災拠点施設として機能する役場の建設（庁舎移転）
- 五ヶ瀬町：五ヶ瀬町役場新庁舎建設事業 令和2年1月～令和3年5月予定



平成17年9月 台風14号 被災状況

○現庁舎は、五ヶ瀬川水系三ヶ所川沿いにあり、これまでの大雨時には1階部分が浸水するなど、災害に脆弱な状況であり、耐震診断結果においても、極めて耐震性が低いと診断された。

これを受け、防災拠点施設である災害対策本部室及び町長室等を新庁舎2階部分に配置する計画となり、平成30年3月に基本構想を策定し、令和2年1月に着工となった。



R3年1月時点 建設状況



整備イメージ

⑦市町村庁舎や災害拠点病院等への情報伝達及び機能確保のための対策の充実

【新防災行政情報伝達システムの整備】

○新たな防災拠点としての機能向上を目指し、防災行政情報伝達システムの整備に取り組んでいる。

新防災行政情報伝達システムの整備



新庁舎完成イメージ

行政機能の集約化、バリアフリー化、防災拠点としての再整備を行い、まちに人が集まる庁舎となるよう工事が進んでいます。新たな防災拠点としての機能向上を目指し、「防災行政情報伝達システム」の整備にも取り組んでいます。

防災情報をリアルタイム収集

- 宮崎県: 道路規制、土砂災害警戒情報 他
- 気象庁: 気象警報・各種危険度分布情報 他
- 国土交通省: 河川カメラ・水位情報 他
- 総務省消防庁: J-ALERT情報 他

自動収集

○防災情報を自動集約化 迅速な発令判断が可能

①デジタル防災行政無線システム



複数メディア配信  
ワンオペレーション対応型

②災害対策本部大型映像システム



イメージ図

③防災情報集約システム



一斉配信

<p>防災行政無線放送</p>	<p>エリアメール 緊急メール</p> <p>docomo au SoftBank 楽天モバイル</p>	<p>五ヶ瀬町登録制メール</p>	<p>SNS・アプリ連携</p> <p>Twitter LINE YAHOO</p>	<p>ホームページ連携</p> <p>五ヶ瀬町 緊急情報</p>	<p>FAX送信サービス</p>	<p>電話応答サービス</p>
-----------------	--	-------------------	--	----------------------------------	------------------	-----------------

町民の方へ 迅速かつ適切な 防災・避難情報を 複数のメディアで一斉配信します